

特集

## 新たなるびんリユースシステムの構築へ!

ガラスびんは、現時点ではリユースすることができる唯一の容器です。  
廃棄物の発生抑制、環境負荷の低減、省資源・省エネルギー化を進めるためにも、  
次世代に向けて、新たなるシステムの構築が望まれています。

循環型社会への転換において求められるびんリユース。  
検討会や実証事業、関係主体の連携などが進められる。

本年4月、環境基本法に基づいた第四次環境基本計画が閣議決定されましたが、その中で、循環型社会を形成していくための重点的な取組みの一つとして、「2R(リデュース・リユース)を重視したライフスタイルの変革」という項目があげられています。大量生産・大量消費型の社会から脱却する上で、まさに排出抑制や省資源・省エネルギーにつながる、ガラスびんのリユースが求められる状況になってきました。

このような流れの中、環境省では、平成22年度に「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」を設置し、昨年度、びんリユースの現状把握と新たなシステムの推進方策の検討などを目的として、計4回の検討会を実施。この検討会で得られた情報を活用しながら、「びんリユースシステムの構築に向けた実証事業」を4つの地域で行いました。今回の「びんの3R通信」では、この実証事業の内2つをピックアップ。事業成果と今後の課題や活動等を紹介します。



▲ 第7回我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会

当協議会は「びんリユース推進全国協議会」に参加。  
びんリユースに関する広報活動も積極的に展開。

当協議会は、びんリユースの普及拡大に向けた様々な主体の連携と情報の共有化を目指した「びんリユース推進全国協議会」の設立に参加。同協議会の活動状況を、リターナブルびんポータルサイト「リターナブルびんナビ」により発信しています。

現在、同協議会で進めているのが、びんリユースの将来像とその実現に向けた「中長期的なロードマップ」の作成です。これまで、びんリユースの普及をめざした取組みは、様々な地域で個別に実施され単発に終わったケースが多く見られましたが、このロードマップは、過去の反省点を踏まえ、ロングスパンの目標を共有化した上で、関係主体の連携を促進し、推進体制の強化を図っていくというものです。

当協議会では、「びんリユース推進全国協議会」において、このロードマップの作成や情報発信などに対し、積極的に支援・協力を行っています。また、びんリユースについて広く理解してもらうために、ホームページやイベントなどで広報活動を展開しています。



▲ リターナブルびんナビ



▲ 昨年度のポスターコンクールで入賞したリユースの作品

## 東日本復興支援「郡山市容器リユースモデル実証事業」

郡山市を中心とした福島県全域

ごみ減量と震災復興を目的に立ち上げた、「郡山市容器リユース推進協議会」が主体となり、Rマーク720mlびんの流通・リユースを促進。



▲Rマーク720mlびん

環境省の「びんリユース推進シンポジウム」を皮切りに、Rマーク720mlびんの利用・リユース促進の取組みがスタート。

Rマーク720mlびん利用・リユースを促進する「郡山モデル」の取組みは、2010年11月より準備が進められてきたもので、翌年3月11日に発生した東日本大震災により成り行きが危ぶまれたものの、復興への前向きな想いと共に、環境省のびんリユース実証事業として展開されました。主体となったのは、郡山市におけるごみ減量・温暖化防止・CO<sub>2</sub>削減への貢献、震災復興への貢献等を目的に立ち上げられた「郡山市容器リユース推進協議会」。同年11月には、環境省主催の「びんリユース推進シンポジウム」が郡山で開催され、これを皮切りにRマーク720mlびん利用・リユース促進のキャンペーンがスタートしました。今回の実証事業では、増加傾向にある720mlの容量のびんで、規格が統一されリユースしやすいRマークびんを対象とし、内容物は基本的に日本酒としています。

びんリユースを促進するために大切なのは、リユースびん入り商品の購入量とあきびん回収量のアップ。

びんリユースを促進するため取組んだのは、「リユースに適したびん入り商品」の購入量を増やすことと「使用済みのリユースに適したびん」の回収量を増やすこと。購入量アップに向けては、まず福島県内の蔵元に対して、Rマーク720mlびんの採用をお願いし、さらに消費者に対しては新聞広告やポスターで、このびん入り商品の購入を促しました。回収量アップに向けては、業務用ルート、販売返却ルート、行政収集ルート、資源回収(町内会・子ども会等)ルートで集められたRマーク720mlびんを、福島県内の蔵元直納のびん商が、有償で買い取るようにしました。また、回収された本数に応じて、1本あたり1円を震災復興の支援金として、福島県に寄付することにしました。

キャンペーンでRマーク720mlびんの回収量がアップ。今後の課題は、消費者へのさらなるリユース啓発活動

今回の実証事業の第一の成果は、従来リサイクルされていた清酒720mlびんの分野で、Rマークびんが新しいリユースモデルとして認識されたことです。また業務用ルート、販売返却ルート、行政収集ルート、資源回収(町内会・子ども会等)ルートの4つの回収拠点体制が完成。全量回収のビジネスルートが確立されました。今回、キャンペーンを展開したことにより、それぞれのルートのあきびん回収量がアップしています。蔵元においては、前年よりも新びんの導入量が減少し、洗いびんの使用量が大幅にアップ。専用レンタルP函の契約も増えています。

今回のキャンペーンでは、「イオン郡山フェスタ店」の店頭にて消費者にアンケートを実施。データを分析してみると、このキャンペーンを知っている人ほど、Rマーク720mlびん入りの日本酒を購入していることがわかりました。ただし、Rマークの意味、リユースの必要性等が消費者に理解されていない状況もあり、Rマーク720mlびんの

認知度をアップさせるための啓発活動が大きな課題となっています。



▲告知ポスター



▲Rマークを強調した商品の展示

●報告書 [http://www.returnable-navi.com/headline/img/pdf/O009\\_1\\_koriyama02.pdf](http://www.returnable-navi.com/headline/img/pdf/O009_1_koriyama02.pdf)  
取材協力:福島大学、福島容器株式会社

### 今後の展望



消費者のRマーク720mlびん入り商品の購入意識や、びんの回収拠点マップの効果等を分析したい!

郡山市容器リユース推進協議会 座長  
(福島大学 経済経営学類 准教授)  
沼田 大輔氏

びんリユースの取組みは継続していくことが大切です。今年度は、直接的なアピールとして、Rマーク720mlびん入り商品のプライスカードに、回収するびんであることや復興支援の寄付について、わかりやすく明記して、消費者がどのように反応するのかを分析する予定です。また、消費者が日本酒を購入する際に、容器の形状等に左右されるかどうか、ネットを使ったモニター調査も考えています。さらに、現在、郡山市におけるあきびんの回収拠点マップを作成中ですが、掲載を検討している情報(店舗概要、リユースするびんの種類、回収条件等)が有効であるかどうかを、しっかり分析していきたいと思っています。



郡山から福島全域へRマーク720mlびんの輪を拡大! 福島県の協力を得て各自自治体へ回収を働き掛けます。

郡山市容器リユース推進協議会 副座長  
(東北びん商連合会 会長 福島容器株式会社 社長)  
伊藤 明人氏

今年度で環境省の実証事業を継続して行い、郡山中心の活動から福島県全域へ規模を拡大していこうと考えています。「郡山市容器リユース推進協議会」の名称は、「福島県容器リユース推進協議会」に改称。今年度は福島県庁関連部署・県議会等の応援をいただくことになり、Rマークびんの使用拡大・回収量のアップ、さらには今後のびんリユース推進活動の追い風になると考えています。消費者への直接的なアピールとしては、Rマーク720mlびんの広告を全面表示した11トントラックが、すでに県内を走っており、多くの人の目を引いております。



▲広告を全面表示したトラック

To The Next



# 「十万馬力新宿サイダー」開発サポート事業

東京都新宿区

「新宿区商店会連合会」と「びん再使用ネットワーク」が連携して、地域限定のリターナブルびん商品「十万馬力新宿サイダー」を開発・販売。



(C)Tezuka Productions  
▲十万馬力新宿サイダー

事業の目的は、びんリユースを地域に根付かせ、びんリユースの地域流通モデルをつくること。

「新宿区商店会連合会」では、同会加盟の早稲田大学周辺の商店会連合会で、街のブランド商品として「地ビール早稲田」を開発・販売しており、さらに平成23年10月より、全国展開地域通貨「アトム通貨」をスタートさせています。一方、生協5団体で構成される「びん再使用ネットワーク」は、長年にわたり、びんリユースの普及活動に取組み、2年前には新しいRマークびん「Rドロップス」を開発しています。

今回の実証事業では、この二つの団体のそれぞれの実績を活かし、連携することにより、新宿区全域において、リユースをテーマに商店と消費者を結びつける商品として地域限定のサイダーを開発・販売しました。この取組みの目的は、びんリユースを地域に根付かせ、びんリユースの地域流通モデルをつくること。資源循環型社会の形成に貢献し、地域を活性化させ、お客さまとのコミュニケーションツールとなることをめざしました。

地元ゆかりの人気キャラクター「鉄腕アトム」と新しいRマークびん「Rドロップス」がコラボレーション。

サイダーは、フレーバーに「アトム通貨」の提携商店街がある徳島県産スタチを使用。びんは規格統一のRマークびん「Rドロップス」を採用し、デザインは地元ゆかりの人気キャラクター「鉄腕アトム」を、手塚プロダクションの協力で使用しています。名称は「十万馬力新宿サイダー」で、今までにないリターナブルびん入り地サイダーの誕生となりました。サイダーの販売価格は1本150円(税込)。あきびん返却時にアトム通貨50馬力(50円)を渡す仕組みで、本年1月13日より販売を開始しました。



▲アトム通貨

回収率は、あきびんが約40%でP函が約75%。最大の成果は、広くマスコミに取り上げられたこと。

「十万馬力新宿サイダー」は、4月30日までに、区内の酒屋やスーパー、レストランや居酒屋など38店舗で、12,936本が販売されました。その時点でのあきびんの回収率は約40%、P函の回収率は75%となりました。この数字について「びん再使用ネットワーク」では、「アトムのイラスト入りであるため、返却しないで記念保管を希望するお客さんが多いから」と分析。想定内の結果と考えています。



▲専用P函

今回の実証事業の最大の成果は、人気キャラクターであるアトムの力を借りて、世の中にびんリユースの話題を提供したということです。昨年末のニュースリリースに始まり、年明け1月5日に東京新聞での掲載以降、新聞、テレビ、ラジオ、WEBなど、多くのマスコミで紹介され、知名度アップにつながり、その結果、新宿地区を超え様々なところから購入の問い合わせが、新宿区商店会連合会に寄せられました。リターナブルびんに入った「十万馬力新宿サイダー」が、環境と地域活性化の商品として話題になり、まさに一つのビジネスモデルを提示できたと思われる。



▲告知チラシ



▲告知ポスター

●報告書 [http://www.returnable-navi.com/headline/img/pdf/0009\\_3\\_shinjuku02.pdf](http://www.returnable-navi.com/headline/img/pdf/0009_3_shinjuku02.pdf)  
取材協力:びん再使用ネットワーク 新宿区商店会連合会

## 今後の展望



初めて「Rドロップス」が商品化され、とても嬉しい!! このびんが全国に広まってほしいですね。

新宿サイダー実行委員会 実行委員  
(びん再使用ネットワーク 代表幹事)  
中村 秀次氏

この「十万馬力新宿サイダー」は、「Rドロップス」を使って初めて商品化されたものです。デビュー商品が話題を集め、リユースモデルを提示できたことを、とても嬉しく思います。このびんは、規格統一の汎用びんで開放していますので、いろんなところで使っていただき、全国に広まってほしいですね。

「十万馬力新宿サイダー」の後、「Rドロップス」商品として、4月には福井県池田町で地サイダー「いけソーダ」が登場。さらに年内に奈良県の大和茶「と、わ(T o WA)」の発売が予定されていて、地域に根差した「Rドロップス」の拡大が非常に楽しみです。



実証事業後も、製造・販売を継続中! 夏祭りや盆踊りなどでの売上に期待しています。

新宿サイダー実行委員会 事務局  
(新宿区商店会連合会 事務局長)  
佐藤 雅英氏

環境省の実証事業は3月に終了しましたが、6月に再び「十万馬力新宿サイダー」を製造し販売を開始しました。当初は新宿限定にこだわりましたが、アトムの人気は絶大で全国的なものです。ネットで全国各地より問い合わせがありましたので、第2弾では区外へもどんどん送り出し、広げていきたいと思っています。

新しい取扱店としては、中野ブロードウェイの雑貨屋などが予定されています。また、夏はサイダーの季節でもあり、区内商店街の夏祭りや盆踊りなどでも、販売されますので、その売上に期待しています。



▲新宿区内小学校の盆踊り販売

To The Next



## 第16回通常総会を開催。事業報告・決算報告ならびに事業計画・収支予算が承認されました。

去る6月21日、日本ガラス工業センターの会議室において、ガラスびんリサイクル促進協議会の第16回通常総会を開催しました。当日は会員会社の代表が出席し、平成23年度事業報告(案)・決算報告(案)と平成24年度事業計画(案)・収支予算(案)について審議され、いずれも承認されました。また新会長に清水泰行(東洋ガラス株式会社 代表取締役社長)が就任することとなりました。



### ■ 平成24年度事業計画 ■

#### 1. Reduce対策

- ① ガラスびん軽量化事例の収集と効果的な広報
- ② 2015年第二次自主行動計画目標に向けたガラスびんの軽量化実績のフォロー

#### 2. Reuse対策

- ① 「びんリユース実証モデル事業」との連携による地域や市場特性に合わせたガラスびんリユースシステムの再強化
- ② 「リターナブルびんポータルサイト」の鮮度維持と参加企業の拡大による効果的広報
- ③ 「びんリユース推進全国協議会」との連携によるびんリユース推進体制の整備
- ④ 関係他団体と連携したガラスびんリユース推進に向けた課題整理と対応策の検討・実行
- ⑤ Rびん回収実績の把握

#### 3. Recycle対策

- ① 自治体別のあきびん収集量・再商品化量の明確化と事例研究
- ② カレット回収量拡大施策の検討実施
- ③ その他用途事例の情報収集・他用途業者との定期情報交換とホームページを通じた情報発信
- ④ カレット品質向上に向けた啓発情報の継続的な発信

#### 4. 広報対策

- ① 小中学生を対象にした「2012ガラスびん絵画・ポスターコンクール」の展開
- ② 「びんの3R通信」による情報発信強化
- ③ エコプロダクツ2012を始めとしたイベントにおける「ガラスびんの3R」に関する直接広報活動の実施
- ④ ホームページ(自治体)掲載項目の充実
- ⑤ ガラスびんリサイクル(びんtoびん)説明動画の新規制作
- ⑥ 自治体との連携強化によるガラスびん3R普及啓発活動の強化

## 環境省が平成22年度容器包装リサイクル法に基づく自治体のあきびん収集量と再商品化量を掲載。

環境省は市町村の分別収集及び再商品化の実績値を各容器素材別に掲載しました。この環境省データを基に、当協議会では、ガラスびんの各自治体の住民1名あたりの収集量と再商品化量を算出しホームページに掲載を予定しております。

[http://www.env.go.jp/recycle/yoki/dd\\_3\\_docdata/pdf/h22\\_re-achi\\_list.pdf](http://www.env.go.jp/recycle/yoki/dd_3_docdata/pdf/h22_re-achi_list.pdf)

びんの3Rの取組みを効果的にアピールし、さらなる推進を図ってまいります。



ガラスびんリサイクル促進協議会 会長 清水 泰行

この度、丸橋会長の後任として、ガラスびんリサイクル促進協議会の会長に選任されました清水でございます。就任にあたりまして、ひと言ご挨拶を申し上げます。

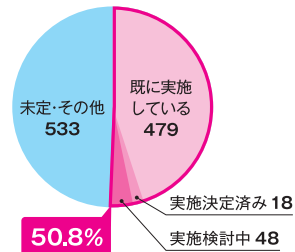
当促進協議会では、2015年度を目標年次としたガラスびん第二次自主行動計画を策定し、資源循環促進並びに環境負荷低減に向けたガラスびん3Rの推進に取り組んでおります。国・自治体・消費者の皆様との連携を強化し、取組みのさらなる推進を図ってまいりたいと存じます。

ご承知の通り、容器包装リサイクル法の平成25年見直しに向けた審議も予定される中、事業者のガラスびん3R推進の取組みを効果的にアピールしていく必要もあります。公益財団法人日本容器包装リサイクル協会をはじめ、会員各社のご協力を得ながら、効果的な事業展開を図りたく、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 「化粧品びんリサイクル」の実施状況について、全国の自治体に5回目となるアンケート調査を実施。

2008年より継続して5回目となる今回は、全国1,705の自治体にアンケートを送付。回答をいただいた自治体は1,085(回答率63.6%)となりました。

平成24年3月時点で、化粧品びんの回収を実施している自治体は479、既に4月以降の実施を決定している自治体が18。また現在、回収を検討していると回答した自治体が48。この3つの回答の合計は545で、回答自治体の50.6%となり、初めて50%を超える結果になりました。



※いずれのアンケートも、一部自治体の重複回答・未回答があり、合計回答数が回答自治体数と一致していません。

### ●平成24年化粧品びんリサイクルのアンケート結果報告

[http://www.glass-recycle-as.gr.jp/news\\_release/data/result\\_q24.pdf](http://www.glass-recycle-as.gr.jp/news_release/data/result_q24.pdf)

## 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会が「ガラスびん分別収集の手引き」を制作。

日本容器包装リサイクル協会が自治体に向けて制作した「ガラスびんの分別収集の手引き」には、異物の混入を防ぎ、より質の高い分別収集を実現するための情報がまとめられています。この手引きの制作にあたり、当協議会も協力しました。



●「ガラスびん分別収集の手引き」をご希望の方は、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会にお問い合わせください。